

昭和四十六年六月一七日 第三種郵便物認可

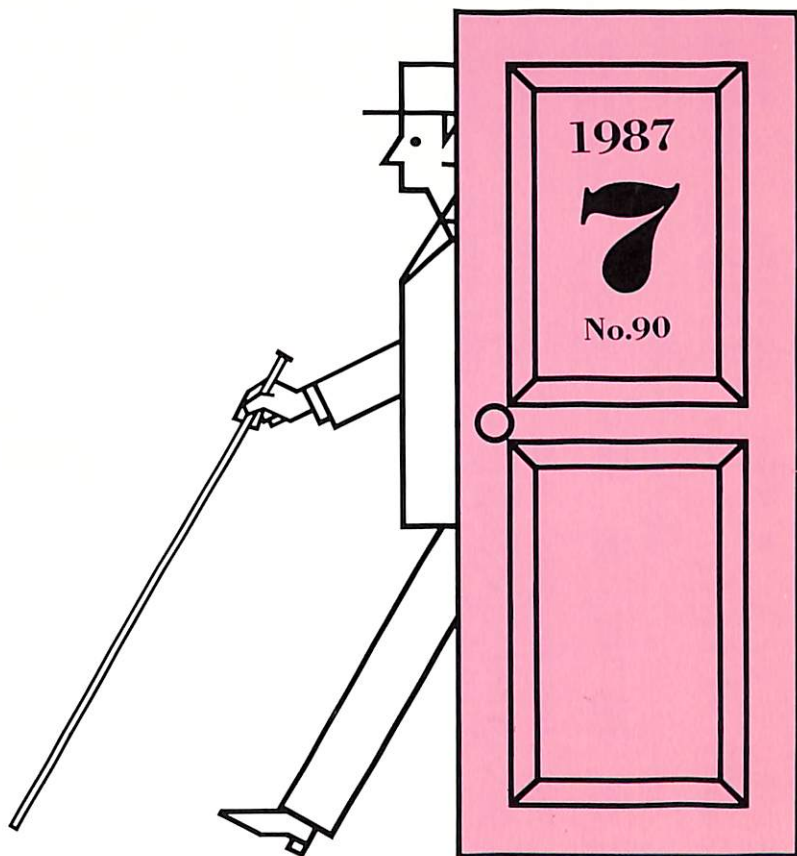
昭和六十二年六月一五日

SSK通巻第一五八二号 (毎月六回、5の日、0の日発行)

視覚 障害

その研究と情報

特集＊企業に働く



ISSN 0385-7476

SSK

叢書 精神の科学 全16冊

カオスの時代、人間理解の新たな方法を探る ●既刊9冊 (6月現在)

現代人の〈こころ〉の問題に多面的に光を当てた岩波講座『精神の科学』の成果の上に、一層の学問的展開を期して、この叢書は企画された。第一線で活躍中の専門家が平易な言葉で、精魂を込めて書下した全16冊は、さまざまな社会的関心にも十分に応える。

1 精神の幾何学
安永 浩著
定価一八〇〇円

2 シニフィアンの病い
小出浩之著
定価一八〇〇円

3 「病い」の意味
山中康裕著
〈続刊〉

4 治療の場が見た分裂病
坂本暢典著
定価一七〇〇円

5 正気の発見——パラノイア
内沼幸雄著
定価二〇〇〇円

6 心身症と心身医学
——精神科医の眼——
成田善弘著
定価一七〇〇円

7 意識障害の人間学
——てんかんを中心として——
河合逸雄著
〈続刊〉

8 境界事象と精神医学
鈴木 茂著
定価一七〇〇円

9 子どもの心とその臨床
滝川一広著
〈続刊〉

10 精神と身体
遠藤みどり著
〈続刊〉

11 脳と言語
野上芳美著
定価一八〇〇円

12 貧困の精神病理
——ベルー社会とマチスタ——
大平 健著
定価一八〇〇円

13 「非行」が語る親子関係
佐々木 譲・石附 敦著
〈続刊〉

14 治療のダイナミックス
轟 俊一・渡辺 登著
定価一七〇〇円

15 医者と患者
吉松和哉著
〈続刊〉

16 写しと強度——分裂病論を超えて——
花村誠一著
〈続刊〉

●B 6判・平均280頁

岩波書店



東京 千代田 一ツ橋
振替〈東京〉6-26240

目 次

1987年 7月 No.90

2 ページ評論	岩橋 明子	2
特集 企業に働く		
花のOL 1年生		
—— 東京銀行外為センターの田畑美智子さん ——		5
障害者へのきめ細かな電話サービスを		
—— ダイヤル・サービス㈱の川田隆一さん ——		9
「粘り」で数々の不幸を克服		
—— 産業マッサージの山本正子さん ——		13
時代の先取りが肝心		
—— 電話交換手の岸田典子さん ——		15
この人と語る		
経営者は盲人の適職	池田 敏郎・畠山 友義	18
私と統合教育		
中野達彦君 —— 人や物との出会いを大切に		30
自叙伝による 近代の盲人像 第6回	谷合 侑	36
昭和62年度における視覚障害者の大学進学状況について		45
昭和62年度における大卒者を中心とする就職状況について		49
インフォメーション・コーナー		53
編集後記		66



2ページ評論 視覚障害者の職業を囲む諸問題

日本ライトハウス理事長 岩橋 明子

国連の世界人権宣言は「すべての人は職業を自由に選択する権利を持つ」と高らかに謳っている。加盟各国はこの働く権利を保証するために適切な政策を立てねばならないということで、更に失業・老齢・病弱・障害等の場合には公的援助を与えることとしている。これらの基本的人権——働く権利と職業の自由な選択——が認められるならば、いずれの地においても視覚障害を含むすべての障害者に対して十分な就職の機会が用意されるよう努力がなされねばならない。

何らかの障害を持つ人々は今世界中で約5億人、平均して10人に1人が何か障害を持っているわけである。その中4億は開発途上国の農村地区に居住しており、しかもその数は今世紀末には2倍になるだろうと言われている。視覚障害者だけを考えても、今日世界の盲人口が4200万とすれば21世紀初頭には1億人近くなることは明白である。国連やWHOがこうした数字を挙げて、早急な方策を要請しているが、実際には中々結果が生れてくる程の行動は起っていないようである。●人口の自然増加 ●世界的インフレと失業 ●オートメーション・コンピュータ・科学技術の進歩による省力化 ●労働力を必要とする作業の減少 ●飢餓・天災・早魃・汚染 ●戦争やテロ活動 ●各種の事故 等々の要因は今後の障害者の就業について考えるとき、文字通り深刻な見通しを持たざるを得ない。

1981年の国際障害者年に引続いて定められた障害者の10年も、折返し点を迎えている。行動計画としていくつもの提案がなされて来たが、●障害者のリハビリテーションのレベルを出来るだけ高度化すること ●各国は障害の防止やリハビリテーションの促進を図ると共に機会の均等化についても努力すること ●中央政府・地方自

治体共に、進んで障害者を雇用し、且つ法令において障害者の雇用を阻むような条件を出してはならない ◎IYDP'81のテーマ達成のためにも、国連自体の中に障害者を雇用するよう門戸を開放すべきである 等、我々にも身近に感じられるようなものも数多く含まれている。しかし会議やセミナー・シンポジウムが開かれて、これらの提案を討議し決議や勧告を採択して氣勢をあげても、一向に実行には移されないことも事実である。行政の側でも、一般社会も、障害者は何も出来ないという先入観があり、色々な法律や世界的趨勢の手前雇用しなければいけないから進めているだけで、本当に能力を認めているケースは少ないと言っても過言ではないだろう。それだけに障害者自身雇用された後に能力的に雇用者を納得させるものを持っていれば、たとえ徐々にでも社会の認識を深めていくことが出来るのではなかろうか。ただ、問題があった場合にそれがその人個人ではなく、障害者全体の問題として受取られてしまうことが多いのも、残念ながら現実である。

色々な機器の開発によって視覚障害者にも可能な仕事の範囲はかなり広がってきており、就業体制も家庭での就業なども出来る今日、明るい見通しが持てない訳ではない。コンピュータ関係でも今後相当数の人手不足が出てくることが予想されている。それだけに技術習得はもとより、人間的にも十分に準備してチャレンジする意欲を持つことが必要であろう。「一般社会で銅貨として通用するためには、盲人の中では金貨でなければならない。」と言った先人の言葉が思い起される。視覚障害者を受け入れる大学もだんだんとふえて進学の道は広げられたが、単に教養を目的とするならばともかく、将来職業に結びつけようとするならば余程の専門知識を習得するよう努力がなされねばならない。障害にいささかも甘えることなく、商品として売出せる能力と誇りを持って、社会に進出してゆく視覚障害者が1人でも多くなることを心から望み、それが後に続く大ぜいの人々に途を開いて行くことを信じるものである。

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みにになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

編集後記

ここ2、3年、視覚障害者の大学進学数がぐんとふえてきています。晴眼の兄弟姉妹と同じように、当然のこととして大学進学を希望する盲学生がふえ、また、家族もそれを容認するようになったからでしょう。しかし、それと同時に大学の門戸開放運動をねばりづよく続けてきた日本盲人福祉研究会をはじめ、関係者の努力を見逃すことはできません。

ところが、卒業後の就職にはみんな悩んでいました。ほとんどの人が理療の免許を持っていないため、卒業イコール浪人という人が多かったようです。それが今年は様相が少し変わりました。10指に達する人たちが就職できたのです。それも、これまであまりなかった民間企業に就職しました。特集の最初の二人をはじめ、“進学・就職”の欄でごらんのように、やっと明るいきざしが見えはじめたと言ってよいでしょう。来年も、またその後も、こうあってほしいものです。

本誌の発行元の日本盲人福祉研究会の事務局が、盲学生情報センターのスタートに合わせて、7月1日から奥付の通り住所変更されます。今後御連絡のときには、お間違いないようにお願いいたします。（田中徹二）

視 覚 障 害	1987年 7 月 No.90
年間購読料	3,000 円（送料とも）
発行日	1987年 7 月 1 日
編集人	（連絡先）
日 本 盲 人 福 祉 研 究 会	
〒160 東京都杉並区成田東 5 丁目 36 番 15 号	
電話（03）220-1421	
振替口座 東京 6-16103	
発行人	身体障害者団体定期刊行物協会
〒157 東京都世田谷区砧 6-26-21	
印刷所	合同印刷株式会社
〒130 東京都墨田区業平 2-9-13	
電 話（624）6111（代表）	

協賛団体 日本点字図書館